

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	平成 29 年度
氏名	福田 みづえ	指導教員 (主査)	今井 弥生 (堤 千鶴子)

論文題目	院内トリアージ研修の受講生における臨床推論と緊急度判定の関連
------	--------------------------------

本文概要

【目的】本研究は、看護師の経験年数により受講前後の臨床推論における思考過程を明らかにし、分析的推論および直感的推論の緊急度判定への影響と研修の成果を検討する。

【方法】対象は、JTAS プロバイダーコース受講の看護師 110 名とした（回収率 88.8%）。質問紙調査法による調査を行い、IBM SPSS. V. 24. にて統計解析を行った。看護師経験 6 年未満と 6 年以上の 2 群に分類し、ケーススタディに対する緊急度判定及び思考過程構成要素の正答率への影響を分析した。

【結果】ケーススタディに対する解答の比較では、プレテストにおいて看護師経験年数によってトリアージレベルの解答の幅があったが、ポストテストにおいて値が定まった。6 つの思考過程構成要素の比較では、研修前後をとおして全ての項目が経験年数に関わらず有意差がみられた。看護師経験 6 年未満の受講前は「再仮説形成」「仮説検証」の実施にばらつきがあり、他の 6 つの思考過程構成要素に比較すると実施率が低い傾向だった。

【考察】経験の浅い看護師は、分析的推論よりも症候に対する直感の推論が強く影響され、病態のイメージ化ができなかったことが考えられた。受講後、知識の習得による病態のイメージ化と学習効果が得られ、妥当なトリアージレベルの改善に繋がった。また、双方の経験年数共に「再仮説形成」と「仮説検証」を強化することにより、全ての思考過程構成要素が実施傾向となり、分析的推論に近づいた適正な緊急度判定に影響していることが考えられた。看護師経験 6 年以上は、元々分析的推論傾向であったが、受講後、さらに分析的推論が強化された。

【結論】研修を通して分析的推論の 6 つの思考過程構成要素の活用が可能となり、受講後の思考方法に変化がみられた。直感的推論と分析的推論を併せて活用することにより客観的なアセスメント能力の向上となり正答率の上昇に繋がることが示唆された。

キーワード：院内トリアージ、JTAS、トリアージナース、直感的推論、分析的推論